大規模データベースを用いた日本人正期産低出生体重児の原因分析

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-03-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 春日, 義史, 飯田, 美穂, 田中, 雄也, 玉川, 真澄, 長谷川, 慶太, 池ノ上, 学, 佐藤, 泰憲, 落合, 大吾, 田中, 守 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00003978

DOHaD 研究 (ISSN 2187-2597)
2021 年 第 9 巻 第 2 号 40 頁

第 10 回日本 DOHaD 学会
＜優秀演題賞候補 1＞

大規模データベースを用いた日本人正期産低出生体重児の原因分析

1 慶應義塾大学医学部産婦人科、2 慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教室

春日 義史 1
飯田美穂 2、田中雄也 1、玉川真澄 1、長谷川慶太 1、池ノ上学 1、佐藤泰憲 2、落合大吾 1、田中守 1

【背景・目的】
低出生体重児（LBW：出生体重 2500g 未満）は将来の生活習慣病や肥満のリスクが高い。本邦は他の先進国と比較し、早産率は低いものの、LBW 率が高いという特徴を有することから正期産（分娩週数 妊娠 37 週以上）LBW が多い。今回我々は正期産単胎 LBW に注目し、その原因を明らかにすることとした。
【対象・方法】
対象は 2013 年 1 月から 2017 年末までに日本産科婦人科学会周産期データベースに登録された妊娠 22 週以降分娩例 1,126,009 例である。死産（6,959 例）、多胎妊娠（54,127 例）、早産（82,810 例）、妊娠 42 週以降分娩（1,725 例）、欠損値を伴う症例（264,974 例）は対象から除外した。多変量ロジスティック回帰分析を用いて、正期産単胎 LBW 発症リスク因子を抽出した。なお、本研究は当院倫理委員会および日本産科婦人科学会倫理委員会臨床研究小委員会の承認のもと行った。
【結果】
715,414 単胎正期産児のうち、55,757 例が LBW であった（7.8%）。55,757 例の LBW のうち、29,801 例（53.5%）が small-for-gestational-age（SGA：出生体重 10%tile 未満）であった。LBW 発症リスク因子としては、母体分娩時年齢が 10 代（Odds ratio [OR]=1.34、p<0.0001）や 20 代前半（OR=1.27、p<0.0001）、初産（OR=1.23、p<0.0001）、非妊娠時やせ（BMI<18.5kg/m2：OR=1.65、p<0.0001）、母体妊娠中体重増加不良（OR=1.90、p<0.0001）、喫煙（OR=1.78、p<0.0001）、分娩週数 37 週（OR=3.89、p<0.0001）、帝王切開分娩（OR=1.55、p<0.0001）、妊娠高血圧症候群（OR=1.87、p<0.0001）、妊娠高血圧腎症（OR=3.11、p<0.0001）、女児（OR=1.68、p<0.0001）、新生児構造異常あり（OR=2.86、p<0.0001）が抽出された。
【結論】
正期産 LBW のうち、SGA は約半数であった。LBW は様々な要因により発症することが再認識され、長期予後予測にはさらなる細分化も検討する必要がある可能性が示唆された。